

くいしんぼうの校長先生はおかしも大すぎです。という  
ことで、おかしのはなしをしてみましよう。

むかしはおかしというものはありませんでした。げん  
し人が毛皮けがわをきてすごしていたころ、のんびりとおまん  
じゅうをたべていたなんてそうぞうできませんよね。生  
きるか死ぬかのぎりぎりのくらしの中ではそもそもほっ  
こりしておかしでもたべようか、というゆとりもなかつ  
たことでしょう。

千三百年ほどまえの人が「からくだもの」というおか  
しをちゅうごくからもつてかえりました。小麦粉こむぎこを水で  
ねって油あぶらであげたものだったようです。

また、おもちがたべられはじめると、すぐにカビがは  
えてしまうので、ほぞんのためにうすきつてほして、  
たべたいときにやくということもおこなわれるようにな  
りました。

せいしようなごんという人はけずった氷にあまづらの  
汁しるをかけてたべるのがすき、だったそうだし藤原道長と  
いう人もはちみつをかけただんごがすきだったとかかれ  
ています。しかし、これらはとてもぜいたくなものでし  
た。

お寺てらや神社じんじやのおまいりの人あいてに、おかしがうられ  
るようになるのはもうすこしあとです。また、お茶ちやの文  
化とともに、生菓子なまがしや干菓子ひがしもたくさん作られるよう  
になりました。

江戸時代には、のうかのにわに柿かきの木がうえられるよ  
うになりました。甘あまがきや干あましがきは、一ばん甘味あまみを感  
じられるおかしだったことでしょう。

おんどくサインー

① なんのはなしでしょう？

② からくだものはどこから日本にやってきたお  
かしですか？

③ 四だんらく目のことをしてできあがるおかし  
は次のどれですか？

（ ）せんべい（ ）かきもち（ ）まんじゅう  
④ からくだものはなにからできますか？

⑤ 氷がすきだった人はだれですか？

⑥ 藤原道長の大こうぶつはなんでしたか？

⑦ お茶の文化と共に作られるようになったおか  
しは何と何ですか？

⑧ なにをえるためにのうかが柿の木をうえたの  
でしょう？

⑨ あっているものに○をつけましよう。

（ ） おもちはずぐにカビがはえてしまう。

（ ） 小麦粉を水でねり、たとくからくだものに  
なる。

（ ） お寺や神社の前に城下町じやうかまちができた。

⑩ おもったことを五行でまとめましよう。

できればは？



くいしんぼうの校長先生はおかしも大好きです。という事で、おかしの話をしてみましょう。それも、和菓子のお話です。

むかしはおかしというものはありませんでした。原始人が毛皮を着てすごしていたころ、のんびりとおまんじゅうを食べていたなんてそうぞうできませんよね。生きるか死ぬかのぎりぎりのくらしの中ではそもそもほっこりしておかしでもたべようか、というゆとりもなかったことでしょう。

奈良時代、遣唐使が唐（いまの中国）に行き、「からくだもの」というおかしをもつてかえりました。小麦粉を水でねって油であげたものだったようです。

また、おもちが食べられはじめると、すぐにカビがはえてしまうので保存のためにうすく切って干して、食べたいときにやくということもおこなわれるようになってきました。

平安時代のエッセイに清少納言はけずった氷にあまづらの汁をかけて食べるのが好き、などとかいていますし、藤原道長もはちみつをかけただんごが好きだったとかかれています。しかし、これらはとてもぜいたくなものでした。

お寺や神社のおまいりの人向けに、門前町などでおかしが売られるようになるのはもう少し後の時代です。また、お茶の文化と共に、生菓子や干菓子もたくさん作られるようになりました。

江戸時代には、のうかのにわに柿の木がうえられるようになりました。甘がきや干しがきは、一ばん甘味を感じられるおかしだったことでしょう。音読サイン↓

① なんの話でしょう？

（ ）  
② からくだものはどこから日本にやってきたおかしですか？

（ ）  
③ 四段落目のことをしてできあがるおかしは次のどれですか？

（ ）  
（ ）せんべい（ ）かきもち（ ）まんじゅう

④ からくだものは何からできますか？

（ ）  
⑤ 平安時代の有名なエッセイストはだれ？

（ ）  
⑥ 藤原道長の好物はなんでしたか？

（ ）  
⑦ お茶の文化と共に作られるようになったおかしは何と何ですか？

（ ）  
⑧ 何をえるためにのうかが柿の木をうえたのでしょうか？

（ ）  
⑨ あっているものに○をつけましょう。  
（ ） おもちはずぐにカビがはえてしまう。

（ ） 小麦粉を水でねり、たくとからくだものになる。

（ ） お寺や神社の前に城下町ができた。

⑩ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

できばえは？



くいしんぼうの校長先生はおかしも大好きです。という事で、お菓子の話をしてみましょう。それも、和菓子の話です。

むかしはお菓子というものはありませんでした。原始人が毛皮を着てすごしていたころ、のんびりとおまんじゅうを食べていたなんて想像できませんよね。生きるか死ぬかの暮らしの中ではそもそもほっこりしてお菓子でもたべようか、というゆとりもなかったことでしょう。

奈良時代、遣唐使が唐に行き、「からくだもの」というお菓子を持って帰りました。小麦粉を水で練って油であげたものだったようです。

また、おもちが食べられ始めると、すぐにカビがはえてしまうので保存のためにうすく切って干して、食べたときに焼くということもおこなわれるようになりました。

平安時代のエッセイに清少納言はけずった氷にあまづらの汁をかけて食べるのが好き、などと書いていますし、藤原道長もはちみつをかけただんごが好きだったとかかれています。しかし、これらは位の高い貴族の口に入らないぜいたくなものでした。

お寺や神社のお参りの人向けに、門前町などでお菓子が売られるようになるのはもう少し後の時代です。また、お茶の文化と共に、生菓子や干菓子もたくさん作られるようになりました。

江戸時代には、農家の裏庭にも柿の木が植えられるようになりました。甘がきや干し柿は、おそらく最高級の甘味を感じられるお菓子だったことでしょう。

音読サイン↓

① 何の話でしょう？

（ ）  
② からくだものはどこから日本にやってきたお菓子ですか？

（ ）  
③ 四段落目のことをして出来上がるお菓子は次のどれですか？

（ ）せんべい（ ）かきもち（ ）まんじゅう  
④ からくだものの原料は何ですか？

（ ）  
⑤ 平安時代の有名なエッセイストはだれ？

（ ）  
⑥ 藤原道長の好物は何でしたか？

（ ）  
⑦ お茶の文化と共に作られるようになったお菓子は何と何ですか？

（ ）  
⑧ 何を得るために農家が柿の木を植えたのでしょうか？

（ ）  
⑨ あっているものに○をつけましょう。

（ ） おもちはずぐにカビがはえてしまう。

（ ） 小麦粉を水で練って炊くとからくだものになる。

（ ） お寺や神社の前に城下町ができた。

⑩ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

できればは？

